

社会科学学習指導案

2年3組 男子22名 女子18名 計40名
指導者 坂田元丈

1 単元名 日本の諸地域「中部地方」

2 単元について

この単元は、今回改訂された学習指導要領の地理的分野の大項目「(2)日本の様々な地域」の中項目「ウ 日本の諸地域」に入る。中項目では「日本を幾つかの地域に区分し、それぞれの地域の特色ある地理的事象や事柄を他の事象と有機的に関連付けて追究する活動を通して、日本の諸地域の地理的特色をとらえさせる」ことをねらいとしている。また、この中項目の学習では、「事象の特色や事象間の関連を説明する学習などを通して、社会的な見方や考え方を養う(平成20年1月中央教育審議会答申)」ことを踏まえ、『(ア)から(キ)で示した考察の仕方』を基にして、地域の特色を端的に示す地理的事象を選択し、それを中核として指導内容を構成することとある。また、「改訂の要点」では「エ 動態地誌的な学習による国土認識の充実」を図るようにするとある。そのため「日本全体について任意に地域区分した上で、それぞれの地域の特色ある事象を中核として、それを他の事象と有機的に関連付けて、地域的特色を動的に」とらえさせる。

ここでは、(ウ)「産業を中核とした考察」から中部地方を扱う。この考察では地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化することなどについて考える。他地域との結び付きということからいえば、関東地方や近畿地方との関連から、「実質地域」として地方を区分する方法もあるが、本単元では「形式地域」として、従来からの中部地方に当てはまる県を扱うこととした。

地域の特色を示す地理的事象を見いだす段階として、中部地方を地図や統計資料から調べると、産業の面では他の地方に比べて第2次産業の占める割合が高いこと、東海地方は他の地域と比べて自動車出荷額の割合が高いこと、東海地方だけで全国の自動車生産の半数を占めること、中央高地では果樹栽培がさかんにおこなわれている地域が分布しており種類も豊富であること、北陸地方の水田率が高くなっているといった特色が見られる。また、日本海側・内陸・太平洋側と3つの異なる気候が分布すること、標高の高い山脈が連なり河川も多く流れており下流に平野部をいくつももつなどといった自然条件にも特色が見られる。

これら中部地方の特色から、「動態地誌的」なアプローチをするために、「なぜ」という疑問点をいくつか挙げさせる。「なぜ、東海地方は自動車産業が発達したのだろうか」「なぜ、中央高地では果樹栽培がさかんなのだろうか」「なぜ、日本海側では米作りがさかんなのだろうか」といった課題を設定し、中部地方の産業に関する特色ある地理的事象を取り上げ中核に据える。各地域の産業の立地や動向などについての追究を通して、中部地方の地域的特色を理解させる。

東海地方で自動車産業が発達したことの理由は、第1に「歴史的な背景」、第2に「結びつき」、第3に「自然条件」、第4に「人口」という4つの要因がある。

第1の「歴史的な背景」では、戦前の繊維産業が発達した地域から繊維機械工業が生まれ、その機械製造の技術力が自動車部品製造に受け継がれていったという経緯があった。また、その地域は、創業者の地元であるといった共通性も見られる。

第2の「結びつき」では、鉄鋼業や部品工場との近接性といった地域間の結びつきや、完成品の輸送のための港や道路網といった他地域との結びつきなどが挙げられる。

第3の「自然条件」としては、自動車製造には関連工場が集積するため、労働力は確保しつつも大都市中心部を避けた地域に広大な工場用地を必要とすることが挙げられる。

第4の「人口」については、自動車製造には多くの労働力が必要であり、人口の多い都市近くに工場をつくることに利点があることが挙げられる。

農業についても、品種・土壌改良や灌漑設備の整備といったこれまでの歴史的な経緯、国内の交通輸送面での結びつき、気候・地形・地質などの自然条件、大消費地（人口）などの側面から特色をとらえることができる。

産業に関して動態地誌的なアプローチから「なぜ」に対する理由を探っていくことで、産業の発達する立地条件（原料立地・消費地立地など）の特色をとらえることができ、他の地方においても産業の特色をとらえたり、他の事象と関連付けたりする概念が形成されると考える。

生徒たちは、小学校の学習で働く人のようすや工場のようす、トヨタ自動車が愛知県にあることなど自動車産業についての知識はもっている。しかし、九州の自動車産業を例に実施したプリテストからは、自動車産業が発達する理由について、交通輸送面について着目しているものの、繊維産業からの技術の継承という歴史的な背景、工場が集積するために大都市からは離れているが労働力が確保できる広大な工場用地が必要であるという自然条件や人口からの要因といった他の地理的な諸条件を相互に関連付けてとらえてはいない。

学習指導要領から、地理的分野における言語活動として、地図を有効に活用して事象を説明したり、自分の解釈を加えて論述したり、意見交換したりするなどの学習活動の充実が求められている。本時の学習では東海地方に自動車産業が発達した理由を、地図やその他の資料を活用して、歴史的な背景、地域間や他地域との結びつき、地形や人口といった要因と関連づけて説明させる。その後、他の地方の自動車産業を例に、身に付けた見方・考え方を応用することで、習得した知識の活用を図りたい。

3 単元の目標

- ・課題についての調査活動で、中部地方の地理的特色について、調べたり考えたりしている。
【関心・意欲・態度】
- ・中部地方の産業についての疑問を歴史的な背景や他の地理的な事象と関連付けて予想を立てたり、検証するために資料を基に考えたりすることができる。
【思考・判断・表現】
- ・中部地方の産業について、資料から読み取れることを検証の根拠として活用することができる。
【技能】
- ・中部地方の産業の特色をもとに、他の地域の特色を読み取ることができる。
【知識・理解】

4 全体計画（全6時間）

- 第1次：中部地方は、どんな特色をもった地方なのだろうか・・・・・・・・・・・・・・・・2時間
 - ・中部地方の基本的特色（県名・主要都市・人口・地形・気候）を理解する。
 - ・中部地方の特色について統計資料・地図を使って他地域と比較する。
 - ・中部地方の産業に、さまざまな特色が見られることに気づき、課題を設定する。
- 第2次：なぜ、東海地方は自動車産業が発達したのだろうか・・・・・・・・2時間（本時2／2）
 - ・予想を立て、資料から読み取ったり、調べたりしたことをまとめる。
 - ・様々な要因から、自動車産業の割合が高くなった理由について考える。
- 第3次：なぜ、中央高地は果樹栽培がさかんなのだろうか・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
 - ・自然条件や消費地との結びつき、地域の産業の変化といった歴史的な背景から理由を考える。
- 第4次：なぜ、北陸地方は米作りがさかんなのだろうか・・・・・・・・・・・・・・・・1時間
 - ・品種改良の努力、灌漑設備や土壌改良など、歴史的な背景や自然条件などから理由を考える。

5 本時の学習

(1) 目標

- ・自動車産業が発達した理由について、様々な資料を互いに関連付け、根拠を示しながら主張を展開することができる。
- ・自動車産業が発達した理由は、歴史的な背景、結びつき、自然条件、人口の要因があることを理解し、他の地域においても共通性を見出すことができる。

(2) 展開

	学 習 内 容	指 導 上 の 留 意 点
課題の設定・把握	<p>○前時の学習を確認する。</p> <p>○本時の学習課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">なぜ、東海地方は自動車産業が発達したのだろうか</div>	<ul style="list-style-type: none"> 前時に立てた学習課題に対する予想について、整理する。
課題の追究・解決	<p>○課題に対して意見交換する。</p> <p>◆第1の要因：「歴史的な背景」 <資料⑦・⑧、教科書P.192> ・戦前に繊維産業(綿織物)が発達した地域から、繊維機械(織機)が製造され、その技術力を継承して自動車づくりができるようになったから。 <資料⑥> ・創業者の出身地であったから。</p> <p>◆第2の要因：「結びつき」 <資料③・④・⑤、地図帳P.93・94、教科書P.192②> ・部品工場などの原料供給地や消費地との輸送に便利な港湾施設や道路網が整備されているから。 ・鉄鋼業がさかんな地域と自動車産業がさかんな地域は重なる。 鉄鋼業がさかんな地域と自動車産業がさかんな地域が重なるのは偶然なのではないか。</p> <p>◆第3の要因：「自然条件」 <資料③、地図帳P.93・94> ・自動車製造には組立工場の周辺に部品工場が集積するので、大都市中心部よりも少し離れた地域で広大な土地を必要とするから。 広大な土地が必要なら、どうして豊田市に工場をつくる必要があるのか。</p> <p>◆第4の要因：「人口」 <資料①・②、教科書P.153⑥> ・自動車生産には、多くの労働力を必要としているから、大都市に近い方が労働力を確保しやすいから。 大都市であれば、東京や大阪も大都市ではないか。名古屋市中心部に工場をつくってもいいのではないか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 座席は互いの表情が見えて話し合いがしやすくなるようコの字形に配置する。 ワークシートにまとめてある意見を、資料などの根拠に基づいて発言するよう助言する。 要因が交錯しないように、付け足しや質問、反論など意見をつなぎ合わせていくよう助言する。 要因を分かりやすくするために、構造的な板書の工夫をする。 前時に回収したワークシートから、生徒の意見を把握しておき、意図的指名が行えるようにしておく。
課題の定着・発展	<p>○課題について分かったことをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 自動車産業が発達する理由には、「歴史的な背景」「結びつき」「自然条件」「人口」の4つの要因があることをまとめる。 <p>○自動車産業が発達する理由について、他の地域に応用して考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">中国地方で自動車産業が一番発達しているのは、どこだろうか</div> <ul style="list-style-type: none"> 広島県で発達している。 繊維産業が発達し、創業者の出身地でもあるから。 鉄鋼業がさかんで、交通網も整備されているから。 平野があり工場を建てることのできるから。 中国地方最大の広島市を抱えているから。 岡山県は平野が広島県より広く、自然条件から考えると、自動車産業が一番発達しているのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> 気付いたことをまとめることで、自らの学びをふり返らせる。 予想させ、4つの要因からその理由を説明するよう助言する。 東海地方で自動車産業が発達した理由から、他の地域に応用させることで、見方・考え方が身に付いているか確認する。

(3) 評価

- 自動車産業が発達した理由について、様々な資料を互いに関連付け、根拠を示しながら主張を展開することができたか、ワークシートの記述や発言によって評価する。
- 自動車産業が発達した理由は、歴史的な背景、結びつき、自然条件、人口などの要因があることを理解し、他の地域においても共通性を見出すことができたか、ポストテスト・ワークシートの記述や発言によって評価する。

6 参考・引用文献

- ・『中学校学習指導要領解説 社会編』文部科学省 平成20年
- ・『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について（中央教育審議会答申）』平成20年1月17日『文部科学省ホームページ』平成23年4月26日最終確認
(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1216828_1424.html)
- ・堀内一男・伊藤純郎・篠原総一編著『中学校新学習指導要領の展開 社会科編』明治図書 平成20年
- ・岩田一彦・米田豊『中学校社会科「新教材」授業設計プラン』明治図書 平成21年
- ・朝倉啓爾・伊藤純郎・橋本康弘『中学社会をよりよく理解する。～平成20年告示 新学習指導要領』日本文教出版 平成20年
- ・山口幸男『動態地誌の方法によるニュー中学校地理授業の展開』明治図書 平成23年
- ・福澤一吉『議論のレッスン』生活人新書 NHK出版 平成14年
- ・『中部地域産業関連表』平成21年11月12日『中部経済産業局ホームページ』平成23年4月26日最終確認
(<http://www.chubu.meti.go.jp/index2.htm>)
- ・『平成20年農業産出額（農業地域、都道府県別）』平成22年1月19日『農林水産省ホームページ』平成23年5月6日最終確認
(http://www.maff.go.jp/toukei/sokuhou/data/sansyutu_zenkoku_09/sansyutu_zenkoku_09.xls)
- ・『自動車関連産業クラスター形成に向けて一関東自動車工業(株)岩手工場の増産による経済波及効果と当局の取り組み一』『東北経済産業局東北地域産業関連表ホームページ』平成23年5月8日最終確認
(<http://www.tohoku.meti.go.jp/cyosa/tokei/renkan/17.pdf>)
- ・内山幸久・山下太一・高橋純『2000年におけるわが国の果樹栽培地域の分布パターン』『地球環境研究, Vol. 6』平成16年
- ・土居晴洋・大家慎一『中津市及びその周辺地域における自動車部品メーカーの立地展開』『大分大学教育福祉科学部研究紀要』平成16年
- ・田中幹大『自動車産業と地域中小企業一北海道の場合一』『中小企業季報2009No. 2』平成21年
- ・大矢佳之『トヨタ自動車の創立期に見る挙母工場の立地要因(1)工業用水と河川水系を中心に』『東海学園大学研究紀要』平成22年
- ・松原敏浩『産業クラスターと人材育成一名古屋地区の事例を中心とした歴史的考察一』『愛知学院大学経営管理研究所』平成17年
- ・『関連企業の未来戦略一明日の資源エネルギーをクリエイトする企業の戦略一東京電力, 中部電力, 関西電力, 中国電力, 北陸電力, 東北電力, 四国電力, 九州電力, 北海道電力, 電源開発, 東京ガス, 大阪ガス, トヨタ自動車, 本田技研工業, いすゞ自動車, 富士重工, 日野自動車』『政治と経済25』平成11年
- ・浜松市商工部商工課『浜松地域テクノポリス計画を振り返って』日本立地センター 「産業立地Vol. 39」平成12年
- ・木村則彦『産業立地基盤整備の変遷』日本立地センター「産業立地Vol. 39」平成12年
- ・『日本海沿岸屈指の工業都市・高岡に拓くオフィスアルカディア一高岡オフィスパーク(富山県)一』日本立地センター「産業立地Vol. 40」平成13年
- ・居城克治『自動車産業におけるサプライチェーンと地域産業集積に関する一考察: 自動車産業における開発・部品調達・組立生産機能のリンケージから』『福岡大学商学論叢51(4)』平成19年
- ・亀田忠男『自動車王国前史～綿と木と自動車～』中部経済新聞社 昭和57年
- ・小林英夫・丸川知雄『地域振興における自動車・同部品産業の役割』社会評論社 平成19年
- ・藤原貞雄『日本自動車産業の地域集積』東洋経済新報社 平成19年
- ・宍倉将則・小門藍子・豊島誉・山口修平「繊維産業の発展が日本の自動車産業に与えた影響」『中央大学商学部河邑ゼミ9期生ホームページ』平成23年5月23日最終確認
(http://c-faculty.chuo-u.ac.jp/~hjm_kwmr/9/spring/gj.pdf)
- ・『トヨタ自動車ホームページ「こどもしつもんコーナー」』平成23年5月23日最終確認
(<http://www2.toyota.co.jp/jp/kids/faq/search.html>)
- ・『都道府県の人口一 大正9年～昭和40年』『政府統計ホームページ』平成23年5月23日最終確認
(http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tcID=000001026554&cycleCode=0&requestSender=search)
- ・藤岡謙二郎編『日本歴史地理ハンドブック[増訂版]』大明堂 昭和47年